

令和 6 年度第 1 回安城市男女共同参画審議会 質問事項等

No.	資料番号/ 該当ページ	質問事項	回答
1	資料 1 p 1 基本目標 1	令和 5 年度の「男は仕事…賛成の市民の割合」が女性 11.9%、男性 21.1%であり、目標値より低いのに評価結果は「A」となっています。達成できた根拠がよくわかりません。資料 1-1 でみてもわからないので、どの資料をみたら、わかりますか。教えてください。	【市民協働課】 この指標は固定的役割分担意識についての項目です。「男は仕事・女は家庭」という意識が解消され、数値が下がることが望ましい指標となっています。(DV 被害経験者のうち相談しなかった人の割合も同様です。)
2	資料 1 p 1 基本目標 1 基本目標 2	D 評価の部分 4 か所ですが、市民の方々のジェンダー平等への意識化が進み現状把握ができたため、一見悪化しているようにも受け取ることができます。ただ、念のため平成 28 年度と令和 5 年度の調査協力者の属性（年齢・性別）について再確認できれば幸いです。（男性が多い、高齢であるなどの偏りがないか）。	【市民協働課】 本資料の最終頁にグラフを添付しました。ご確認ください。
3	①資料 1 ②資料 1-1	①・②資料を見ると、上位の基本目標の達成に向け、施策・具体的取組み内容が計画、実行されていたと思います。②を見ると進捗状況において A・B 評価が多く、きちんと活動が為された結果だと思いますが、A・B 評価を伴う活動が為されていたにも関わらず、①基本目標（特に 1・2）の評価が D という結果になったのはどのような理由によるとお考えでしょうか。	【市民協働課】 男女平等の意識については、男性・女性に偏ることなく同様に減少していることから、固定的役割分担意識により従来では当たり前とされていたことが、市民意識の向上によって不平等であると認識され始めるなど、「平等」の感じ方が変化していることも理由の一つと考えられます。
4	①資料 1 ②資料 1-1 第 5 次男女共同参画プラン	第 4 次で D 評価となった基本目標（男女平等意識の促進・若年者への男女平等意識の定着）が、第 5 次プランからは消えたようです。第 5 次プランを策定するうえで、4 次の結果をどのように評価し、それを踏まえどのような経緯で基本目標を見直すことに至ったのか可能な範囲で共有をお願いします。第 5 次は大きな方針転換が為されたように思ったので特に説明をお願いしたいです。	【市民協働課】 D 評価の理由の一つと考えられる市民の「平等」の感じ方の変化に対応する新たな目標値として、第 4 次プランの目標達成状況や、アンケート・ヒアリング結果等から課題を洗い出し、それに対応する目標を設定しました。 消えているのではなく、新たな視点で目標 1～3 に分けて設定しています。

No.	資料番号/ 該当ページ	質問事項	回答
			基本目標は変更しましたが、成果指標達成に向けた取組は引き続き実施していきます。 (資料3参照)
5	資料1-1	進捗管理シートに、市民協働課の評価・コメントがほしいです。 例) P14 子育て支援課の「C (Check)」施策進捗状況Dに対して。D評価を受け、「A (Action)」の活動計画があるが、この活動計画について、市民協働課がどのように捉えていて、どう今後関わっていくのかが知りたいです。	【市民協働課】 進捗管理シート内の PDCA は各課での進捗管理です。プランとしての全体の進捗管理は、第5次プラン本編 p 61 のとおり、「C (Check)」は本審議会となります。 各課が設定した「A (Action)」に対し改善を求める場合は、会議での意見を次年度の取組に反映するため、市民協働課から各課にフィードバックし、必要に応じて取組み内容の見直しや改善を求めます。
6	資料1-1 p 9	「学校等における教育機会の充実」は、中学3年生にパンフレットの配布をしています。なぜ中学3年生だけでしたか。意図があれば教えてください。 (私見ですが、思春期前半突入の中学1年生ごろが二次的性自認の時期であり、中学3年生より中学1年生、2年生を先に配布したほうが子どもが一人で悩むことが少なくなる可能性が高くなると思います。)	【市民協働課】 第1次プランから、毎年中学3年生に配布することですべての生徒に配布しています。 配布する学年を下げることにについて、学校教育課と協議し、今後の配布時期について検討してまいります。
7	資料1-1 p 13	・評価は「D」となっておりコロナの関係で実現は厳しかったとは思いますが、養護教諭の保健の時間は限られています。 ・外部講師派遣26回で、養護教諭は各学校で何回実施できたのでしょうか。調査されているのでしたら、教えてください。 ・また、物品の貸し出しとは何を貸し出しているのでしょうか。 ・小学5・6年生へのチラシ配布は、安城市全校児童でしょうか。	【健康推進課】 ・養護教諭等が実施している思春期保健に関する授業の回数は把握していません。 ・物品の貸し出しは、健康教育物品貸出表の通りです。 ・チラシは市内小学5・6年生に対し教育委員会を通して全員配布しています。 ・チラシは長期休暇前に年3回配布しています。表面には「思春期保健相談ルーム」の案内を掲載し、

No.	資料番号/ 該当ページ	質問事項	回答
		・そのチラシは、どんな内容のものでしょうか。児童の理解できる内容であったかどうか、一部の児童への聞き取りなどをされたのでしょうか。（できれば審議委員会当日にそのチラシを拝見したいです。）	裏面には「健康日本21安城計画」の取組みからテーマを決めて、「自己肯定感」「喫煙防止」「睡眠」の内容を掲載しています。本人と保護者に向けての内容にしています。児童への聞き取りは実施していません。 （市民協働課補足：健康教育物品貸出表とチラシは参考資料として当日配布します。）
8	資料2 p 1	審議会委員を決定する時の男女参加率が記載されていません。審議会委員の決定に関することについての検討がこれまでされているのでしょうか。 （ちなみに選挙管理委員会の女性の登用率は毎年ゼロでした。）	【市民協働課】 各々の審議会では、委員構成を定める規則等に男女の割合は定められていませんが、第5次プランでは法令・条例により設置される審議会等の女性委員の割合の目標を35%に設定し、庁内各課に周知・働きかけをしています。 選挙管理委員の選任については、市議会での選挙により選任されます。候補者の選出の段階から女性登用について配慮していただけるよう働きかけます。 なお、本審議会における男女の委員数は条例で「男女のいずれか一方の委員の数は、委員総数の10分の4未満とならないものとする。」と定められています。
9	第5次安城市 男女参画プラン p 20	男女共同参画の観点から子育て家庭状況を保育士・幼稚園教諭調査をして整理されています。この結果について異論はありません。しかし、保育士や幼稚園教諭対象で間接的に調査をされているので、どちらかというと「そうではないか」という推測での結果だと思われます。 ・なぜ、直接対象者の家庭状況調査をされないのでしょうか。 ・保育園・幼稚園のみでなく、小・中・	【市民協働課】 子どもがいる世帯への調査は市民アンケートと対象者が重なるため、家庭状況調査は実施していません。 性別による無意識の思い込み等は幼いころに定着する場合が多いことから、就学前児童やその保護者の状況等を客観的に把握していると考えられる保育士・幼稚園教諭を対象としました。保育・教育現

No.	資料番号/ 該当ページ	質問事項	回答
		高校の先生方の調査も必要ではないでしょうか。対象として調査されない理由を教えてください。	場における変化や子育て家庭の状況、子どもへの影響に関する項目を調査し、このアンケート結果も参考に、子どもに関わる方向けの啓発パンフレットも作成しました。
10	第5次安城市男女参画プラン p24～25	⑤DVについて 高校生の調査結果で、被害を受けても誰にも相談できなかったと訴えています。(書いてくれただけでも、大変な勇気が必要だと思います。隠したいけど、知って欲しい、助けて欲しい、誰かに聞いてもらいたいと思っています。) 実際はもっと被害者はいると思います。 ・このようなデリケートなアンケートは、どのように回収されたのでしょうか。 ・「誰にも相談できなかった」が半数以上に上る中、なかなか被害者を特定できず、支援もできにくい状況ですが、本人だけが苦しんでいる状況を打開するための方法として工夫されたことがあれば、教えてください。(今回の委員会でこのあたりの意見交換ができるとありがたいです。)	【市民協働課】 印刷したアンケート用紙を各学校に配布し回答を依頼しました。アンケートは無記名で行い、プライバシーに配慮して実施されております。10日ほど回答期間を設けて各学校で取りまとめ、封筒に入れたアンケート用紙を職員が回収しました。 「誰にも相談できなかった」と回答された方の割合は高校生だけでなく一般市民も50%を超えており、この割合を下げることは引き続き第5次プラン基本目標4の成果指標でもあります。DVに関する知識の普及や相談窓口の情報提供等、広く周知・啓発します。
11	その他	現在「LGBTQ」という名称が一般的ですが、なぜ、「LGBT 等」と略されるのでしょうか。正しく認識してもらうのには略さない方がよいのかと個人的には思うのですが、略されている意図があれば、教えてください。	【市民協働課】 性的マイノリティは「LGBT」以外にも「Q (Queer クィア、Questioning クエスチョニング)」や「X (X-gender エックスジェンダー)」、「A (Asexual アセクシュアル)」など多様ですが、それらすべてを含めるため「等」としました。しかし、「LGBTQ」や、他にも様々なセクシュアリティがあることを意味する「+ (プラス)」を追加した「LGBTQ+」が使用されることが増えていますので、今後検討する必要があると考えます。

アンケート協力者属性（H28、R4 比較）

- ・あなたは、「社会通念・慣習・しきたりなど」で男女の地位は平等になっていると思いますか。
- ・あなたは、「学校教育の場」で男女の地位は平等になっていると思いますか。

